



# 研究

## 蘇聯領沿海州の歴史産業交通の概況

H T 生

### 地理的に見る沿海州

茲に地理的に於いても亦種々なる關係を至大に持つ蘇聯領沿海州の歴史産業交通の概要を書くに當つて嚴密に云へばソヴェート社會主義聯邦共和國即ち現在のロシアを見るに廣袤實に二千百三十五萬三千百平方杼其の人口は一九三三年調査に依ると一億六千五百萬に餘る世界屈指の大國である、北は北洋白海に接し、西北はバルチック海の一隅とヨーロッパ最大の湖水ラドガ湖並にオネガ湖を抱き南に

黒海と世界最大の湖であるカスピ海とアラル海を湛へ、遠く極東オホーツク海に面して居る、陸続きは唯西と南のみであつて之等の境域の内部は地球上最大の廣原に貫かれてゐる、東方シベリアとの境にはウラル山脈が北から南に走つてゐるも決して峻高ではなく従つて交通も極めて平易である、このシベリアには亞細亞第一の大湖バイカルがあり又オホーツク海にはカラケト島のあることも周知である、而し沿海州はこの尨大なる領土を持つ所謂蘇聯領の一部で

あるが、日本海の北邊に當つて我國とは一衣帶水を隔てゝゐるのである、即ち函館から浦鹽までは僅かに七百八十九軒であり又、樺太の國境から對岸の沿海地方までは大體に於いて青館海峡の距離に等しいのである更にこの沿海州は朝鮮及び滿洲とに境を接してゐるから我國とは有ゆる角度から觀察して至大の關係と影響があるのである、元來現在の蘇聯沿海領は從來に於ける露國帝政時代の行政區劃としての沿海州から見ればその範圍も縮少されてゐるのであつて、即ち帝政時代の行政區劃は北樺太、カムチャツカ半島並にチュウコト半島までも網羅したる廣大なる範圍であつたか、蘇聯時代になると沿海縣と改稱して千九百三十八年には更に沿海地方と改稱して自然その行政區劃も縮少的になつたのである。而して現在の沿海地方は大體日本海に面したる極東の一角である、即ちシホテ・アリン山脈を中心線としたる土地であり、東南は韃靼海峡と日本海とに面し、西南は我が朝鮮に境し、西北は滿洲國と接し又北方はハバロフスク地方に接してゐる、これを緯度的に見ると、

北緯四十三度と五十一度と東經百三十一度と百四十一度との間に位してゐる、その海岸線は日本海に沿ふて千軒以上にも延長して、滿洲國境から日本海までに一番廣い處は約三百五十軒と云はれてゐる、更に面積では約二十萬七千二百平方軒、人口に於ては千九百三十九年の人口調査に依ると九十萬七千二百二十人となつてゐる、全體この沿海地方は極東中にて最も人口の密度は高いと云はれてゐるが夫れでも僅かに一平方軒に四人強に當るの状態であり、而してウラヂオストロク市は行政中心都市である。

#### 沿海州の地形について

この沿海州の地形を觀察すると、先づ沿海地方の中心を縦に日本海に面する海岸に沿つて太古から發生したる皺曲性山岳であるシホテ、アリン山脈が走つてゐる。又西南から東北に向つて伸びてゐる幾多の併行山岳帯があり従つて地表には非常に山岳が多いのである、而してソヴェート灣から北方に行くに従つて地表の高低は漸次少くなつて平垣なる高地と化しところどころに餘り高くない山岳があるだ

げである。之れに反して南方へ行くと地表の凸凹は益々細かくなつて高い山脈となり又個々に獨立したる丘陵があつて更に南端に行くと、シホテ・アリン山脈は例のピョートル大帝灣の水中に没して處々に島嶼となつて海面に出現してゐる有様である、尙ほシホテ・アリン山脈の東側の斜面は頗る急峻であるがためにこの斜面を流るゝ河川は淺瀬が多くして非常に急流であるが、西側は漸次廣大なる波狀形の平原となつて興凱湖の低地を出現してゐるためにこの斜面を流るゝ河川は概して長く従つて流れも緩慢である、若し夫れ海岸方面について見ると、東海岸並に東南海岸は多く斷崖絶壁をなして屈曲少く、只だ僅かに岬と小島嶼と淺い入江があるばかりである、併乍らその内でもソヴェート港とウラヂーミル灣及びオリガ灣があつて何れも相當の良港である、かくの如き東南海岸に反して南海岸は頗る屈曲多く、幾多の灣入又は岬半島島嶼等は散在してゐる、彼の廣大なるピョートル大帝灣もあり又アメリカ、ウオストーリウスリイ、アムール、ゾロトイ、ローグ、ボシエツト、等の

名稱の各港があつてその中でもゾロトイ、ローグ灣は船舶の停船に適するのである、又ピョートル大帝灣の中央にシオテ・アリン山脈の餘波が隘狭なるムラヴィヨフ・アムールスキイ半島を初め幾多の島嶼を形作してその主なるものはルスキイ、ポポフ、リコールド、プチャーチン、アスコリド等の各島である。河川に於ては沿海地方は可なり稠密錯綜してゐるが西側河川はアムール河系に屬してゐる、東側河川は日本海に直流してゐる、彼のウスリイ河はアムール河系中最も大なるものであつてその延長約九百軒に達し上流の大半は沿海地方にある、又日本海に注ぐ河川は頗る多いがトウムジャ、ムーリ、フールドウ等の支流を有するトウムニン河を始めとして約三十三河川を數へらるゝのである、例の朝鮮との國境を流れる圖們江原名トウメニ、ウラ河はこの沿海地方の最南端にある河川である、而して日本海方面にある河川は多くは航行不能なるが材木の流送には適し又給水の意義を持つてゐるのみならず、水力發電にも使用されてゐる、アムール河に注ぐ河川は部分的には小

型河船の航行に適してゐるがシホチ・アリン山脈西斜面の

河川は約五箇月間は結氷する有様である、全體沿海地方の諸河川は雨期に於いては氾濫をなして相當波を襲るのであるが最近大なる貯水池の設置に依つて多量の水をこゝに導き以て結氷用及發電用に利用して洪水防止の方法を講じつゝある状態である、湖水に至つては興凱湖は、面積四千三百八十一平方軒にして沿海地方中最も大であるが、この湖水の約四分の一は蘇聯領に又四分の一は滿洲國領に屬してゐる、この外に海岸地方には幾多の小湖水が散在してゐるが彼の昭和十三年の張鼓峰事件で有名になつたハサン湖も亦その内では最も大なる湖水の一つである。序いでに沿海地方の氣候について一筆附加して置くが、一體沿海地方と云ふところは太平洋のモンスーン圈内に入つてゐる關係上獨特の氣候である、即ち海に近いのに拘らず氣温は大陸的である、南部一帯は丁度クリミヤ半島と同緯度にあるが、冬の寒氣はクリミヤの比にあらずして殆んど白海のアルハンゲリスク地帯の寒氣と同様である又降雨量も非常に豊富

である。

#### 露の極東侵略と八岐の大蛇と酒天童子の挿話

惜て茲でロシアとこの沿海地方との關係を歴史的に概観すると、露人が最初十四世紀の頃ウラルを越えて西部シベリヤに進出し始めたのに端を發してゐる、夫れはノヴゴロド市の毛皮商人が毛皮買占めのためにオビ河下流附近に至りヴォグール族オスチャク族サモエド族等を征服して貢物を獲得したのであつた、其後イワン三世の時即ち千四百八十三年にはヴォグール族オスチャク族の地帯に大遠征を敢行したのであつたが、十六世紀の末葉に至つて露國は初めてウラル北方への攻略を企圖したのであつた、其後露國の極東政策には幾多の迂餘曲折があつたが、勇敢なる彼等ロシア人は侵略方針を繼續したのであつた勿論その間に於いて千六百五十二年の如きはロバート・ロストーフスキイ公爵を司令官とする約三千の軍隊を極東へ派遣する事になつてゐたが露波戰爭及び其他の事件の勃發のため遂に極東へ派遣を斷念して露國の極東對策は一時遂行すること

が出来なかつたこともあつたが、十八世紀の中頃には露國人は既に北米の太平洋沿岸にまで可なり多數移住して來つてカムチャツカのペトロバヴロフスクから現在の米國桑港に至るまでの間を露國艦隊や商船隊で相當長い間支配して居つたこともあつた現に千八百十七年には露國人は現在のサンフランシスコ市のある場所にロツス港と呼ぶ軍港を作つた位である。千八百五十三年にはネヴエリスコイはイムペラードル灣に最初の移民を移住せしめ又そこに軍事哨所を設置し、同五十四年にはプチャーチン伯は軍艦を率いて支那及び我國に寄港して更にアムール河口に達したがその途中に於いてビョートル・ヴェリーキイ灣を發見したり、更に同五十九年には露船アメリカ號の乗組員はビョートル・ヴェリーキイ灣内に更に一つの灣を發見してこれを船名に因みてアメリカ灣と名付けたりして要するに北はアムール下流から南はボンエツトまでの沿海地方の全沿岸は露國の探險家や軍人に依つて殆んど無血占領されたものであつた、而して千八百五十八年に至つて露支間に所謂璦琿條約

が締結してこれに依つて全アムール沿岸の左側は露國に委讓されることとなり、ウスリイ河と日本海との中間にある一帯の土地、即ち現在の沿海地方は露支共同監理下に置くことになつたのであるが、其後この條約は天津協定に依つて確認されたが、更に千八百六十年に露支間に彼の北京條約が締結されて支那政府はウスリイ河及びアムール河以東韃靼海峽沿岸までの土地即ち今日の沿海地方を完全に露領として認めたのであつた、これにて露國の極東侵略は千五百七十九年のエルマークのシベリヤ遠征から千八百六十年のこの北京條約の締結まで僅かに二百八十一年の間に於いて露國は廣大なる亞細亞の大半を自己の領地としたのである、而してこの地方が露領となつた頃にはオロチ、オロチヨン、ウデヘー、ニヅフ、ゴルド、ダウル、デヌーチエルと云ふ七族の原住小民族が分散的に相互何等の連絡もなく山脈や大原始林に依つて相互に隔離されて原始的生活を營んで居たのであるが茲に一寸奇獵的挿話として素盞鳴尊が出雲の鏡川の川上に於いて八岐の大蛇など退治したこと

は太古この沿海地方からの漂流者でさるオロチ族の一部であつたことや彼の源頼光が丹波の大江山に於いて退治したる酒天童子もやはり我國と一衣帯水の間にあるこの地方のロシヤ人と原住民の混血種が山陰道に漂流して來たもので、當時邦人は身のたけ高き異人種とは全然交際しないのみか彼等は殺さるゝのを恐れて大江山に逃げ込み遂に食糧に窮して夜間民家の家畜を襲ひたりして漸く山屋に日を送つて居たので當時彼等は人間の血を飲んで居ると見たのは漂流の際持参したる赤き葡萄酒を飲んで居たのであるとの想像的の記事が露國の古き文献に出て居つたことである。

#### 沿海州の行政と太平洋侵略の據點

閑話借置この沿海州の行政の概要を見ると、帝政時代は州統治の中心地も漸次にニコラエフスク市からハバロフク市、夫れからウラヂオストーク市へと移動して居るが、先づ沿海州が形造られると沿海州總督を置いたが總督廳の構成は州計畫、州醫務、州建築、州林業の各部に分かれて夫々主任官を置き、總督の權限これ等を統括すると共に東洋

諸港の最高指揮官と沿海州駐在軍司令官とを兼ねて居つたのである。而して沿海州をニコラエフスク・ハバロフスク・ウラヂオストーク都市は都下警察の管下に入れたが、千八百九十七年に至つて州内を九管區と五都市として統治して居たのである。而して北部管區はアナドウィルスカヤ・ペトロパヴロフスカヤ・コマンドルスカヤ・ギジギンスカヤ・オホーツスカヤ、南部管區はウードスカヤ・ハバロフスカヤ・ウスリースカ・ウスリイ・コザツク等の各管區として管區長官と補佐官から成る警保行政が施行されて居て、ウスリー・コザツク管區のみは師團長によつて統治されて、師團長は管區長官の權限を併有して、その配下には補佐官と各分區を統治する將校が居り、又全管區には管區醫を置き、各都市警察には警察長官を置いて市内は區數に分つて警視か區警察署長となつてゐたのである。總督府の所在地について最初はどの地點に置くかは相當重大の問題として取扱はれたやうだが、結極國防關係と地理關係を考慮して遂にハバロフスク市に決定したが、その後千八百九十年

に浦鹽に移動したのである、夫れはウラヂオストークは軍港、商港としての意義が漸次重大視されて來たのに依るのである、かやうにして沿海州は、殊に露領の太平洋岸として國防的にも又經濟的にも極めて重要な土臺となつたので、露國はこれを根據として太平洋侵略を企圖したのであつた、彼のアムールスキイ伯の……一度擧げたる旗は降すべからず……と云つた言葉は當時の露國の太平洋進出の意圖を露骨に現はしたものであつて、事實浦鹽は今世紀の始め頃から露國ウラヂオ艦隊が編成されたのは彼の日露の役で、戦争開始と共に我國を脅威したことは周知するところである。對滿政策に一時成功して露國が多年熱望する不凍港旅順、大連の兩港が露國太平洋發展の據點となると浦鹽軍港の關心を多少薄らいだ如くであつたが、露國が敗戦の結果旅順、大連を失ふと共に南滿洲から總退却をなすと再び露國政府はこの沿海州と浦鹽とを以て太平洋政策の據點とするに至つて日露役の失敗を挽回せんと着々準備をなすに至つたのである、茲に於いて我國にとつては沿海州は經

濟的意味よりも寧ろ國防的意味が多であると思ふのである。現在この地に對する邦人の發展は、主として商業關係であるが、そのうちには洗濯屋又は理髮屋を營む目的で渡航するものも相當あつたが、朝鮮人は主として農業に依存し、支那人は商業及び労働を以て沿海州の經濟生活中に喰ひ込んでゐる。内地人、朝鮮人、支那人等は沿海州から進んでアムール州方面にも渡航發展するに至つて、帝國政府は浦鹽に總領事館を設置し、更にハバロフスク・ニコラエーフスク・ブラゴエシチエンスク等にも領事館の設置を見るに至つたが、残念ながら邦人の發展は何所までも寄生的だと云はれて居る。

### 犯人追放の地としての狀況

一體露國にとつてはこの沿海州は經濟的にも又國防的にも相當重要な據點と認められるが、他面帝政時代の露國政府は、犯人追放の地として利用したのであつた、故に極東とかシベリヤとか沿海州と云へば概念的に犯罪者の巢窟のやうに浮ぶのである、事實帝政政府は政治上又は刑事上

當時の法律に觸れた國事犯人、殺人者、強盜、其の他重大犯人は多くこの地方に追放したので、これ等犯人が次第に自由の身となつてこの地に土着したのも多數あり、又事實これ等多數の犯罪分子は政府の威令が未開の地に行はれぬのを奇貨として正業よりも犯罪行爲を繼續して土地の良民を苦め、多數の同志を糾合して強盜團を組織して隣村は勿論、遠く國境を越えて支那領にまで侵入したのであつた、彼の極東の名物であつた馬賊、所謂露語ではフンフリーの如きもその起源は支那人の獨占にあらずして露人の專業であつたのである、極東に於ける一般住民も亦大體に於いて不逞分子の種類が多く、港内の荷揚人足や官立造船所の勞働者や鐵道工場の職工等其他多くは本國の脱走兵又は破獄者、前科者及び各地の監獄の放免された徒刑囚、無賴漢が多數であり、その上露本國から派遣されて來る行政官及び軍人等も場所柄を心得て不正惡事を働く者も多數であつたのである、かくの如き不逞犯罪分子が沿海州の平和なる住民を脅威してこれがため開發を非常に遅延せしむる

の最大原因をなして居ると云つてよいのである、大體かやうな状態の中に千九百十七年即ち大正六年の露國革命はロシア全體に一大轉換をなしたと共に沿海州にも一大變局を來たしたのである、露本國は即ちリヴォフ政府からケールンスキイ政府、次いでレーニン政府へと僅かに一年間に走馬燈のやうに變つてその度毎に極東の東端にある沿海州の政情も變化したのである、ソヴェート政權下の沿海州は千九百二十二年の十月に彼のウボレヴィチが引率せる軍隊に依つて浦鹽市に乗り込んで直ちに沿海州革命委員會が組織されて市内の秩序維持に當つたから始まるが、次いでチタ市に極東共和國國民會議が開催されて、同會議は極東國民會議を解散して全極東をソヴェート政權下に置いて極東共和國の民主主義的の憲法と法律を廢止し、以て極東革命委員會を組織して、かくて極東共和國は消滅して茲に沿海州はソヴェート・ロシアに併合され沿海縣と改稱したのであつた、而してソヴェート政府は沿海州を併合してその一切の權力を收得したが、併乍ら沿海州の經濟状態は頗る振は



ず、従つてその經濟生活は全く死滅の狀況にあつたことは當時沿海州の農業も工業も商業も殆んどなきが如く、故に住民はその日の生活にさへ窮迫して殆んど飢饉に等しい悲惨なる生活を送つて居たのであつた。

### 沿海地方の産業と地下資源

然るにこの沿海州地方も蘇聯政權下に收めらると、蘇聯聯邦の所謂計畫經濟が準備時代を脱して愈々積極的に促進せらるゝに至つた、千九百二十八年から同三十二年末に至る第一次五ヶ年計畫の樹立につれて極東、殊に沿海地方も蘇聯の前哨地として三回に互る五箇年計畫即ち千九百二十八年から同四十二年までにウスリイ鐵道の強化、浦鹽港の擴張、浦鹽造船所の建設、綜合大學の新設、移民の増大、林業の強化、農業機械化の強化と、米作付面積を七萬ヘクタールと定め二萬七千ヘクタールの土地開拓と一萬七千ヘクタールの土地に灌溉作業の施行、浦鹽に廣大なる農業倉庫の新設、炭礦の強化、發電所の建設、集團農業の創設、及び浦鹽市に上下水道、電車線路の延長、普通教育の普及

と成人教育を行ふ等々の計畫實施であつた、併乍ら滿洲事變が勃發してこれに關聯して日滿對蘇の國際情勢が非常に重大化したために、この時期が恰も第一次五ヶ年計畫の終期から第二次五ヶ年計畫の最頭に互つて居るために、五ヶ年計畫の遂行に大なる故障を來たすと共に、蘇聯は沿海地方が再び我國の侵略の危險に陥入つたと云つて、急遽この地方は歐露並にシベリヤから軍隊を送つて殆んど無防備狀態であつた沿海地方も着々として前哨陣地化したが、それに反して、軍備的努力のために經濟建設は遅延したのであつた。更に今回の獨蘇戰の結果右計畫を放棄するの止むなきに至つて居る、併乍らこの沿海州には無限の天然資源を藏してゐることは種々の調査研究に依つて立證さるゝとさうである、即ち地下には石炭を始めとして、褐炭、鐵、鉛、亞鉛、金、銀、錫、滿俺、水銀等々の莫大なる埋藏量を有し、森林も殆んど斧鉞を加へたことのない處女林は到る所凡ゆる樹種を密生してゐる有様である、水産物も非常に豊富であるが、農業は穀類、工藝農作物、瓜類、馬鈴薯

蔬菜類の栽培に適し、又肥大なる野草にも最適である、尙ほこれ等の資源について稍具體的に見ると、現在銅の産地は十箇所發見されてゐるが、銀、亜鉛、鉛等の産地は六十箇所ある、殊にテチユヘーの産地は沿海地方での鑛業で有名である。亦磁鐵鑛、赤鐵鑛、褐鐵鑛等の産地も現在では三十箇所以上も數へられるが、オリガ地區はその埋藏量が多量である、金は南部海岸地帯のイマン河、ピキン河、スズヘー河等の谿谷から産出するが、石炭、褐炭に至つては殆んど全地域に分布して炭層が地表に露出して居るところも相當ある、殊に石炭は南部地方に多くシホテ・アリン山脈の兩側にも到るところに石炭は露出してゐる、又最近調査して稼行してゐるスーチャン・アルチョイム・タヴリ・チャンカの三大炭田もあるが、ピョートル大帝灣の全沿岸の如きも亦ハサン・アヂミ・モングガイ・グロデコーヴォ・リポーフツア・ヴォロシローフ・レフー河等の地區も石炭埋藏地區である、其他軟黒鉛、耐火粘土、白色粘土、硝子製造用材料の砂岩、石灰岩、大理石、セメント用材料の礫

石、雲母、硫黄等種々なる鑛土物を産出するが、植物と森林も沿海地方にはその種類は極めて豊富である、現にシホテ・アリン山脈の兩斜面の如きは其の面積千萬ヘクタール以上に及んで原始そのままの雄大なる處女林に覆はれて其の大部分は貴重なる材木を出す大森林である、これ等の森林は針葉樹と灑葉樹にして、朝鮮紅松、ダウリヤ高葉松、赤松、アヤン蝦夷松、蝦松、樅、滿洲胡桃樹、白樺、黃樺、菩提樹、楓、コルク樹、楡、アラリヤ、赤楊、アカシヤ、ライラツク、柏、レスベヅナ、山林檜、梨、杏、西洋櫻等々多種に互つて繁茂してゐる、而して地域的に見ると植物の分布はシホテ・アリン山脈の西側斜面には針葉樹が多くて所謂滿洲植物帯であり、東側斜面は灑葉樹帯でその中に紅松其他の針葉樹が混生して居る、殊に針葉樹は北方に行くに従つて多く南方には少なくなつてゐる、又アジミ灣の北方では滿洲植物帯がオホツスク・カムチャツカ植物帯と變つてアヤンの蝦夷松等が多くなり、沿海地方には珍樹も發生してゐる有様である。沿海州の動物についてはこれ

亦種類は頗る豊富である、即ち虎を始めとして北極鹿、猪、麝香猫、ヤクーツスク貂、豹、栗鼠、臭猫、野生山羊、羚羊、兎、狐、狼、獾、山猫、エノト形犬等が棲息してゐる。鳥類も亦豊富であるが、山鳥、蝦夷山鳥、鴉、郭公、雉、高麗鶯、朱鷺等が山野湖沼を飛び廻つて居る、亦鷲、大鷹、梟等の猛鳥も棲住し、夏季には鴨、雁、白鳥等の渡鳥も澤山來るやうである、若し夫れ魚類に至つては沿海地方は相當に長き海岸線を要してゐるので、魚族は極めて豊富である、即ち鯨、鰯、鱒、鮭、鱈、淡水魚貝類、蟹等であるが、日本海沿岸の河川には時期に至ると鮭、鱒は多量捕獲されるのである。大體以上はこの沿海州地方の資源である。

### 沿海地方の工業概要

併てこの沿海州地方の工業狀況の概略を見ると、全體この地方は日本海に面して後記するが如く大シベリヤ鐵道の終點に在て、蘇聯の太平洋岸に於ける唯一の出口であり、又蘇聯邦と亞細亞領と更に世界市場とを繋ぐ唯一の關口で

あると同時に、極東の北方諸地域と蘇聯邦とを結ぶ基地である關係上、經濟的には極めて重要な場所でありながらこの地方の工業は全極東蘇聯領一體に於けると同様、現在では未だ發達しない状態にある、この原因に就ては沿海地方はこれまで主として農業移民に依つて開拓された關係にもあらうが、現在はまだ現地産物を原料として地方市場へ供給する所謂家庭工業の域を脱しないものが相當に多く、彼の浦鹽の兵器關係工場、造船所、鐵道關係工場を除外すれば醸造、製粉、バター、マツチ、皮革、裁縫等の日常必需品の地方的小工場が各都市に散在するのみである。現に農業機械類の如きも多くは輸入品に依存してゐる有様である。今工業部門に於ける投資額を統計に依つて見ると。

工業投資種類		一九三五年	一九三七年	一九三九年(比率)
全國的なる食料工業		一〇〇〇	……	一四三
共和國的なる食料品工業		一〇〇〇	……	四四〇
漁業		一〇〇〇	……	五八三
炭礦業		一〇〇〇	……	一七九

交 通	一〇〇	一三九
調達人民委員部	一〇〇	一四九
海上運輸	一〇〇	一七四
共産體經濟	一〇〇	一三六

の比率を示してゐる。スターリンが三回に互つて強行した彼の五箇年計畫以來三〇箇年以上の新工業的企業が建設を見たが、スパスクのセメント工場、ヴォロシロフ市の製糖工場と牛酪綜合工場、アルチョム區の發電所、浦鹽市の埋藏庫、セダンカの水道、及びスパスク・ヴォロシロフ・浦鹽諸市の新設製麵工場等が主たるものである。機械工業に至つては相當注意する必要もあるから一筆附加して置くが、兵器航空機關係工場はその性質上判明すること困難なるが、浦鹽市を始めヴォロシロフ市等には相當大規模のものが建設して居る模様である、造船所は浦鹽とソヴェト灣にあつて、一般河川船舶、海洋船舶等の修繕建造軍艦の組立修繕建造等を行つてゐる。又自動車工場は浦鹽に相當大規模の組立と修理工場があつて、軍用並に一般自

自動車トラックの組立修繕部分品等の製作を行つてゐるが、自動車生産工場は未だ完備しないやうである。又ヴォロシロフ市には機關車修繕工場があるが、機關車車輛の生産までには至つてゐない模様である。其他の工業としては石鹼、燭蠟、活版、煙草、染料、燐寸、製藥、木材乾溜、製糸、絨毛、蒸氣、洗濯、碾削、酒精、製菓、麥酒、腸詰、油房、製麵等の各工場があるが何れもたいしたものではない。食料品工業に至つては浦鹽とヴォロシロフ、アルチョム・スーチャン・ソヴェト灣等に最近新に製麵麩所が建設されてゐる、又浦鹽とヴォロシロフには製肉綜合工場も建設され、更に菓子工場、寒天工場等は新に建設されてゐる、其他果實罐詰工場、ビール製造所、リキニール・火酒製造所、燻製工場等も漸次設立してゐるが、浦鹽に大規模の製粉綜合工場が作られてゐる。又製糖業は第二次五箇年計畫に於いてヴォロシロフ市にカリーニン製糖工場の建設され、製脂業も年産能力一萬七千甬の工場はミヤコン第一號油脂綜合工場として作られてゐる。

沿海地方の農産物

沿海州の農業に至つては氣候は大體農業には適してゐるが、併乍ら寒暑共に酷烈のため廣大なる地域を擁しながら發達は極めて遅々たる有様である、故に農産物を以て自給自足は困難の状態にある。従つてこれまで滿洲方面から多量の穀物、麥、大豆粕、生畜、肉類、野菜類等を輸入してゐた有様である。而して五箇年計畫實施以來の農村集團化と農業機械化との結果、漸く沿海地方の農業も其の面目を一新し來つたやうである。蘇聯邦の發表せる資料に依ると千九百三十三年には沿海地方に於いてコルホーズに統合された農家は全沿海地方の農家中六十五パーセントあつたが同三十九年には九十六・九パーセントに増加したとのことで、組織的にも經濟的にも強化してコルホース農民の収入も増加したが、コルホーズの播種面積は沿海地方の全播種面積の九十九・七五パーセントに及んでゐる。國民經濟計算局沿海地方支部の資料統計等に依ると。

農産物

一九三六年の收穫

一九三八年の收穫

小麥	六・〇	八・五
大麥	七・七	七・七
燕麥	七・五	九・一
豆類	六・二	六・九
玉蜀黍	八・二	八・四
米	二一・四	二〇・〇
甜菜	七〇・四	一〇三・〇
馬鈴薯	七三・六	八一・六
胡瓜	……	七五・五
キャベツ	……	九七・一
人参	……	六二・一
トマト	……	八八・一
西瓜	……	九八・〇

となつてゐる、この蘇聯當局の資料統計を信用出来ると思つて沿海地方の農産物の收穫高は年々増加の傾向を辿つてゐる状態にある。尙牧畜はこれも蘇聯の資料を基礎に置く、千九百三十八年度には牛頭數一〇パーセント、馬頭數六・五パーセント、豚頭數一三・一パーセント、羊と山羊

頭數三四・三パーセントを増加し、同三十九年度には三十八年度に對して牛は八・二パーセント、豚は三六・七パーセント、羊と山羊は二八・九パーセント、馬は四一・一パーセントを増加して、牛三萬五千六百四十四頭、豚一萬四千三百七十四頭、羊一萬四千七百九十九頭と發表されてゐる。尙ほ沿海地方に於ける米作適地は興凱湖畔一帯の地域と松阿察河、ウスリー河、スイフン河、スーチャン河、モト河、レフー河及び海面に注ぐ諸河川の沿岸とスイフン河から朝鮮國境に至る海岸地方の三千五百四十三平方露里即ち我國の約三萬町歩の水田事業であるが、米作の將來は極めて有望とのことである。

### 沿海州の道路鐵道の交通輸送

偕て資源開發に重大關係を持つ沿海地方の交通輸送路の狀態を觀察すると大體に於いて自動車路、鐵道、水路、航空路になるが、先づ自動車路について見ると總括的には未だ十分なる發達を見ざる狀態にある、蘇聯當局が第二次五箇年計畫以來極力自動車路の開通を計らんと企圖したる路

線は、ハバロフスク・浦鹽間八百露里、ヴォロシロフ・ラズドリノエ間三十露里、ラズドリノエ・ウグロワヤシコトヴォ間六十五露里、ラズドリノエ・バラバシ間六十四露里、ヴォロシロフ・イマン間三百二十露里、ヴォロシロフ・アヌチノ間百十露里、ヴォロシロフ・ポルタフカ間六十露里、ヴォロシロフ・カーメン・ルイポロ間百八露里、カメーシ・ルイポロフ・グロデコヴォ間六十二露里、チエルニゴフカ・ワヂモフカ・ヴォロシロフ・カネン・ルイポロフ間五十露里、チエルニゴフカ・ノヴォ・ポクロフク七十五露里、ハルボドン・ルチキ間十五露里、バラバシ・ノヴォキエフス間百露里であるが、これ等の自動車路は總て碎石を敷きつめたる幅員の廣道路であり、自動車等の二臺三臺は併行して走るやうに計畫してゐるが、これ等自動車路の完全を蘇聯當局は急いで居るのは勿論、軍用の意味を多分に持つて居るが、他面これ等道路の通過する興凱湖畔の平野と夫れ等の地域は沿海州に於ける最も人口の稠密した地方であり、又農業はこの地方を中心をなし

て居るためでもある。故にこれ等の道路は穀物其他農産物を集散地に搬出することを多分に考慮して計畫したものである。千九百四十年の沿海地方に於ける自動車總數は乗用車九百三十二臺、自動貨車五千四百五十五臺、バス七十九臺、特殊車二百十六臺合計六千六百七十八臺となつてゐるが、乗合自動車路は約三千軒以上に達してゐる。尙自動車配置の密度を面積及び人口に比例して見ると千平方軒當りの自動車數は六十九臺の割合となり、自動車一輛當りの人口數は五十九人となるのである。而して自動車用の燃料は主としてガソリンを使用して代用燃料の使用は極く僅少である。このガソリンは北樺太の原油をアムール河に依つてハバロフスク精油工場に送りこゝで精製されて大部分は高架索から鐵道にて輸送されて居る有様である。従つてこの燃料の長距離輸送は沿海地方の自動車運輸に屢々多大の障壁を見ることがあつて、殊に近く獨軍の高架索征服が完成すると沿海地方の自動車運輸は一大打撃を受けるに至るだらうと云はれてゐる。沿海地方の鐵道は浦鹽とクロペロ

ーヴォ間九百十軒である。以前は浦鹽とアルハラ間が例のウスリイ鐵道と呼ばれて居たが、千九百三十六年極東鐵道管理區畫改正によつて沿海鐵道と改正して、他の部分即ちクロペローヴォ・アルハラ間は極東鐵道と改稱されたのである。而して沿海鐵道の支線としてヴォロシローフ綏芬河間百二十五軒に綏芬河支線、ヴォロシローフ・ツリローグ間百二十七軒に興凱湖支線、ウーゴリナヤ・ナホードカ間百七十一軒のスーチャン炭坑支線等があるが、沿海鐵道の前身即ちウスリイ鐵道は千九百年に敷設完了してアムール鐵道が完全するまで東支鐵道を経てシベリヤ鐵道本線に連絡して太平洋岸に出る露國唯一の鐵道であつたが、現在の沿海鐵道本線はシベリヤ鐵道の本線中の最東端區間にて浦鹽を出て眞北に向つてアムール灣に沿つてヴォロシローフ市に至つて、こゝから東北に曲つてウーリイ河に沿つてハバロフスク市に向つて走つてゐる。この鐵道は最近まで單線であつたが、千九百三十二年滿洲事變の翌年から蘇聯政府は急速にアムール鐵道の復線工事に着手して千九百四十年

に大體これを完成したのである。而して極東殊に沿海ウス  
 リイ兩州の經濟に大なる意義を有して一方蘇聯邦の一般鐵  
 道網に連絡して他方浦鹽を経て外國市場に連絡するの力を  
 以て居る。蘇聯當局が云ふところに依ると沿海鐵道の能力  
 と貨物輸送力は著しく増大して、千九百三十七年度の貨物  
 輸送量は同三十二年に比較すると約二倍以上に増加し、又  
 旅客輸送も同三十八年に浦鹽から各方面に赴く旅客人員數  
 は五百九十九萬五千六百人と云ふことである。大體沿海地  
 方の鐵道概要であるが、この他に沿海州の交通運輸につい  
 ては水路と航空路があるが、航空路は發達狀態は頗る問題  
 に至らず、只だ民間航空隊が運營して浦鹽モスクワ間八千  
 百九十軒がこの地方を通過するのみである。

要するに沿海地方の開發は蘇聯治下になつてから長足の  
 進歩發展をしたやうであるが、事實は必ずしもこれを肯定  
 することが出来ないやうに思はれるのである。勿論開發も  
 局部的に見れば相當成功してゐる點もあるが、世界的水準  
 に比較してまだ底度の觀がある。現に人口密度の如きも現

在一平方軒僅かに四人強であるところから見れば、二十年  
 以前の沿海州の人口と殆んど同様である。然しこの地は嘗  
 て世界革命の發祥地を自任するモスコイはソヴィエト政  
 權の確立以來常に東亞細亞の重大意義を認識して居ると共  
 に、我が國に於ても重大なる關心を持たらざるを得ない地  
 である。殊に獨蘇開戦と大東亞戰の勃發はこの地に關心を  
 薄らぎたるやうであるが、衣水一帯の關係上吾々は益々沿  
 海州の事情には相當の認識を以て居る必要がある。若し夫  
 れ蘇聯極東の軍備問題については題目以外の問題であるか  
 ら勿論省略して置くのであると共に、これが所謂沿海州の  
 ホンの概要である。

×  
 —————  
 ×

×  
 —————  
 ×